

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300459		
法人名	社会福祉法人 千葉福祉会		
事業所名	グループホームなごみ	ユニット名	森の家
所在地	宮城県栗原市志波姫北郷大門87		
自己評価作成日	令和 4年 10月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 11月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人敷地内に特別養護老人ホームとデイサービスが併設されており、看護師や管理栄養士の協力を得ることができる。慰問の歌や踊りを一緒に見る等の交流が多くある。協力医の内科、精神科、歯科の回診があり各医師による「勉強会も実施している。研修等に参加し職員の質の向上に努めている。毎月の避難訓練と年二回の消防署、地域協力員参加の訓練も行っており防災設備も整っている。空きベットを利用したショートステイの事業も行っている。大型スーパーや新幹線の駅から五分と立地条件が良く、遠方からの面会の方に喜ばれている。母体施設の看護師の巡回もあり、医療面でのご利用者様への対応の充実が図られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新幹線くりこま高原駅や大型ショッピングセンターの近くにホームがあり、田園の中の集落の一角に位置している。敷地内には特養ホームやデイサービスセンターを併設して、地域の福祉拠点になっている。入居者の現有能力を維持出来る様に、本人の状態に合わせたケアを大切にしている。コロナ禍もありホーム内の行事を多くして、入居者に笑って貰う機会を増やしている。家族との関係継続を支援し、入居者の手紙と一緒に写真や塗り絵を送っている。居室の入口には表札以外にイラストを描いたものを貼る等、入居者の笑顔を大切にした職員の様々なアイデアや工夫が活かされたホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなごみ)「ユニット名 森の家 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を見直し見やすい所に掲示している。また各職員に1年間の目標を記載して達成度を一定期間ごとに自己評価しその後管理者との面談を行っている。	法人理念、なごみ理念をホールや会議室に掲示して、職員がいつでも確認出来る。会議でホーム理念の振り返りを行い継続とした。職員の個人目標を掲げ、所長との面談等で達成出来たか確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する農村公園の清掃を地域の方々と一緒に行っている。又、地域住民のボランティアの受け入れ、地域のお祭りにも参加していたが、今年度もコロナウィルスの為行っていない。	ホームに隣接する公園の清掃や国道にある花の植栽等を、地域の方と一緒にしている。地域の情報は運営推進会議のメンバーから提供される事が多い。食材は地元の商店から購入し、配達して貰っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学者を受け入れているが、今年はコロナ対策の為受け入れていない。空きベットを使ってショートステイは受け入れている。広報誌を発行したり地域の方々の相談や質問に応じている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度会議をもち、生活の様子や活動状況を報告している。質問やご意見を受け施設の向上に役立っている。メンバーの皆様とご利用者とで一緒に会議を作り上げている。	花見の行事や外部評価を受けた事、職員が行なった虐待防止の研修報告をした。メンバーからは、地域の避難訓練等について報告があった。双方向の報告から共通認識に繋がり、運営向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市民サービス課長や地域包括センターの職員を推進委員に委託している。運営上不明な点など市担当者に相談しスムーズな運営に活かしている。	市にショートステイの利用について情報交換をした際に、短期間の利用は難しいとの話があった。コロナ対策では、ワクチン接種等の情報交換をしている。市から研修などの案内が届く。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外玄関は施錠しないことはもちろんのこと、各居室の窓も暑い時は開けており利用者の所在の把握や行動の把握に気を配っている。毎月会議で身体拘束があるかないかの確認をし、3ヶ月に一度身体拘束委員会の話し合いを持ち、職員全体で意識統一をしている。	年に4回の身体拘束廃止委員会を、「処遇会議」の中で開催している。足元センサーは、転倒防止の目的で期間を限っての使用にしている。知らないふりをする事も見えない拘束になる事を確認している。身体拘束をしない方法などについて勉強している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修にて職員間の意識統一を図り身体的虐待は勿論のこと心理面でも職員一人ひとりの言葉遣いや態度に気を配り防止に努めている。又ご利用者同士の関係にも配慮している。会議でも言葉遣いについての話し合いが持たれている。	高齢者虐待防止法の研修をしている。落ち着いた方には、職員を交代する等の対応をしている。「虐待の芽チェックリスト」で15項目の自己チェックをして、年に1回結果を職員と本部に報告して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットの活用や、研修会などに参加し処遇会議内にて発表している。成年後見制度の活用の実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書をわかり易く説明して納得頂き契約している。個人情報使用目的に関する同意書、ショートステイ利用、医療連携体制加算に関する同意書など頂いている。介護報酬改正時にも書面で説明し同意書を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご利用者代表、ご家族代表に意見を頂いている。事業所内に外部の相談窓口を表示している。ご家族の来訪時や電話連絡で意見や要望をお聞きし運営に反映させている。	入居者から「家族に電話したい、病院に行きたい、毎日外に出たい」の意見があり、それぞれに対応した。家族からの「訪問診療や裁縫させて」の要望には、家族の協力を得て実現している。家族から電話で聞くことが多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体での勉強会や説明会があり意見交換をしている。なごみの処遇会議内でも意見交換の場を設けている。職員各々目標を掲げ自己評価と面談で意見を取り入れたり、賞与に反映させている。毎月の利用率を会議で発表し全職員で努力している。経費削減も話し合い意見を反映させている。	外に出ることが多かった方に、「ゴミ捨て散歩」があり実施した。入居者の帰宅願望に対応し、自宅が見える所まで行った。職員の意見で、部屋に籠りがちな方を居間に誘い、食事も他の方と共に出来る様になった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時には報奨金があり、給与に資格手当がつく。目標管理シートで考課査定を行いやりがいや向上心を持って働けるよう努め、賞与や正職員登用に反映させている。また、健康診断年2回実施。腰椎検査、ストレスチェック等行い、心身の健康保持に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て毎月所内研修を行い個々のスキルアップに繋げている。管理者は職員の力量により目標を設定させ面談することで職員の育成に努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や業務を通して意見交換を行いサービス向上に取り組んでいる。また、オンライン研修で同業者と交流する事でサービスの質向上の取り組みをしている。	他法人のグループホームとリモート研修を通して、良いケアや失敗談等の情報交換をしている。市のケアマネ研修では看取りケアについて、情報交換し、ホームのサービス向上に活かした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネを通して基本情報をいただき、ご本人とご家族に事前に面談し、情報を把握するよう努める。利用開始に当たっては、ご本人の話を傾聴し皆様の輪の中に入れるよう環境作りに努めている。環境が変わっても不安にならないよう声がけを多く行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時に自宅での介護の様子を聴き、ご本人はもちろんご家族も安心して生活できるように支援を行っている。常にご家族と連絡を取り合い要望等を言いやすい環境、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を伺い、新しい環境に早く慣れて頂くよう努めている。柔軟な対応を行い安心した生活に向けた支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である皆様の得意分野を見出し、発揮できるよう工夫している。趣味活動への援助等を行い、楽しみを増やし互いに支え合いながら生活できるよう、支援を行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対策の為、パーティー越しの面会、またはオンライン面会を実施している。外来受診の際はご家族付添いをお願いしており、状態変化がある時は電話や手紙で報告行っている。家族参加の行事もあるが今年度は中止している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ対策の為、ご家族、ご親類、ご友人の面会を規制しているが、普段はいつでも外出や面会ができるよう支援している。家族参加の行事を設けたり、月に一度はお手紙を書いている。また、定期的に出張床屋を依頼し、談笑しながら髪を切って頂いている。	家族との面会は玄関でしている。かかりつけ医の受診の際に、知人に会うことがある。家族には毎月生活状況報告と写真を送り、返礼がある。月に2回来訪する床屋さん馴染みの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が自由に過ごせるように居場所の確保に努め、ご利用者同士の関係を十分に把握し、活動等を通じて円滑になるようにしている。(職員は情報共有できるようにしている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が母体施設に移った時には時間を見つけては顔を見に行ったり、ご家族の方も職員や利用者の顔を見に寄って下さる事もある。その時の会話の中で支援できる事があれば出来る範囲内で行っている。母体施設からなごみでの様子を聞かれた時は相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から希望、意向の把握をし、できるだけ叶えられる様努めている。ご家族には面会時等に意向を伺っている。	家族と話したい方には、毎日の様に電話で話せるよう支援している。毎日外に出たい思いを把握し、プランターの水やりや落ち葉掃きをしてもらった。思いの表出が苦手な入居者との会話を多くし、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始後も常に会話を持ち生活歴習慣の把握に努めている。新しい発見や情報もその都度記録しており、ご家族の協力も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人の生活リズムを理解し行動等から推測検討しながら、全体像を把握している。個々の有する能力を見極め、お手伝いや等、得意分野を生かし活動に活かしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で検討課題を共有し、ご本人の意向とご家族の意向を聞き入れながら作成している。毎月カンファレンスと、モニタリングを行い必要に応じて、計画の変更を行っている。	楽しく過ごしたい方に、散歩や家事、テレビ体操など出来ることを介護計画に入れた。外出傾向が見られた時の、声掛けを統一することをプランに入れた。歌が好きという人に、みんなと歌を歌うことをプランに入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録とチェック表を記入している。ケアカンファレンスを行い、職員間で情報の共有を行い介護計画の見直しや実践に活かしている。毎日の引き継ぎで変化について話し合い工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望時にはいつでも外出、外泊されているが、今年度はコロナ対策の為病院受診のみでご家族の協力を得ている。通院代行支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域協力員会議、防災訓練などは地域の協力を得ている。地区の行事にも参加出来るよう支援しているが、今年度はできていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されるかかりつけ医となっている。基本的には受診や通院はご家族となっているが、都合がつかない時には職員が代行している。ご家族の受診時には、文章や口頭で状態を報告しているが、必要な時は職員も同行している。現在は訪問診療の方もいる。	入居前からのかかりつけ医や訪問診療医を利用している。通院は家族対応が基本で、状態等を書面にして家族を通して医師に伝えている。歯科診療は個人契約で、月に2回の来訪がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、母体施設の看護師の巡回があり、ご利用者の健康管理をおこなっている。状態変化時には母体施設の看護師に協力をもらい、早急の対応を行っている。協力医の看護師とも連絡を取り相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず、同行し、ご家族や医師と情報交換に努めている。入院中も連携室と連絡をとり状態を伺っている。ご本人の回復状態を把握し、退院後の受け入れや、対応を、医師、ご家族と話し合い、早期に退院できるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要があると、当事業所では対応できないので、入所時に特養ホームに申し込みをして頂いている。当施設での看取り支援に関する意向確認書をご家族より記入頂いている。当施設で看取りを迎える場合には家族、主治医、職員でムンテラを行っている。	重度化した場合の対応指針を定めている。ホームで看取りを希望する方が多く、この1年間で3名の看取りをしている。隣接する特別養護老人ホームの看護師と支援体制がある。看取りケアのポイント等の研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当の講習を受講している。又事故発生時や緊急時のマニュアルは作成されており、全職員は心得ている。事故発生時は事故防止対策検討会で検討し発生防止に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉会と地域協力員の災害時のマニュアルが作成されている。日中は勿論の事、夜間想定避難訓練も月1回定期的に行われている。消防立会いの訓練は年2回行われている。	年2回の地震想定を含む火災等の避難訓練を毎月実施している。夕刻の訓練等で時刻の工夫もある。緊急時には、住民による地域協力員との協力体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心掛けています。特に言葉がけの際は細心の注意を払っている。入室の際は、ひと声かけてから入室するようにしている。会話時は分かりやすい言葉掛けと笑顔で対応している。	居室に入る時には、入る目的を話して入る事になっている。耳が聞こえ難い入居者に話す時は、聞こえ易い方向から声を掛けている。排泄介助では安全確保の為に少し開けて、廊下で見守りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせてご本人が答えやすく選びやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の心身の状態に応じて、自分なりの生活が出来る様支援を行っている。ご本人の意思を尊重して活動や行事に参加していただいている。無理のないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の歯磨き、洗顔、ひげ剃りを状態に応じ支援したり、声がけている。季節にあった洋服が選べるようにしている。また、出張床屋を利用して頂き、要望に合わせて散髪してもらいおしゃれが出来るように支援している。行きつけの床屋がある方は来園し散髪して頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や旬の食材を取り入れている。又、月に一度、希望献立が設けられており、皆さんの希望の食材を取り入れている。一人一人に合った、お手伝いを職員と共に行っている。	日曜日は希望メニューとなり、入居者の希望としてスパゲティーやラーメンの人気の高い。敬老会やクリスマス等の行事食は、弁当や寿司等を地元店に注文している。ホットケーキは入居者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による、献立で栄養バランスが摂られ、摂取量の記録も細目に行なっている。カロリー制限や、塩分制限の方もおり、把握をしながら、提供している。又、咀嚼や嚥下状態に応じ、刻み食や、ペースト食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声掛け見守りを行い、出来ない方には各々に応じた歯磨きの手伝いや、舌の清潔保持にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り、記録を行い、一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間ごとの声がけや誘導を行い、個々に応じた支援を行っている。トイレのサインは見逃さず、失禁を減らし自立に向けた支援を行っている。	8人が声がけ程度の支援で自立となっている。排泄チェックリストを使って定時の誘導をし、失敗を少なくしている。そわそわする等の行動サインを見逃さずに、声がけをして誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給の徹底を行い便秘対策に取り組んでいる。排便確認を行い乳製品の調整等も行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の希望に合った入浴を行っている。気の合う方同士や一人で入りたい方の希望にも応じている。また、菖蒲湯や、ゆず湯等で季節感を味わっていただいている。	午前や午後の時間要望や温度の希望に応じている。菖蒲湯やゆず湯等で季節を感じている。毎日入浴したい方には、週4回にして今後増やす方向にしている。衣服の着脱だけの介助で1人で入浴する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気に触れる機会を多く持ち、就寝時は、音や光、室温、湿度に注意を払い、良眠出来る様に支援している。就寝時間や起床時間等も記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに綴り、職員が内容を把握できるようにしている。外来記録簿を作成し、受診内容を記録している。又、内服薬変更時にも状態変化を詳細に記録し、職員の情報の共有化に努めている。母体施設のナースが巡回時に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意分野で力を発揮していただき、出来そうな事を職員と共に楽しみながら行っている。常に感謝の言葉を添えて協力して頂いている。(テーブル拭き、食器拭き、ゴミ捨て、編み物、塗り絵、ウエス切、他)また、毎晩晩酌をしていた方には、ノンアルコールを提供し気分転換を図っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、行事以外の外出はできなかった。買い物や地域のお祭りなどできる限りご利用者の要望を取り入れるように心がけている。	春の花見や秋の紅葉、冬は白鳥のいる伊豆沼等と季節によって外出をしている。通院の帰りに家族と買い物をして来る方もいる。ホームの畑では、じゃが芋やピーマン等の季節の野菜を育てて、外での活動にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、預かり、個別に金庫に保管し、出納帳に記入し、毎月ご家族にサインをいただいている。外出の際自分で食べた物の支払いを行って頂く機会も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物等があった際には、自ら、電話の出来る方もいるが、出来ない方には、支援を行いながら、直接、電話で話しをしていただいている。季節に合った、手紙やはがきの支援も行っている。(年賀状、暑中見舞い)		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、木のぬくもりがあり、心地良さが伝わってくる。天窓からは、光が差し込みゆっくりとくつろげるよう配慮している。季節により装飾を変え利用者と共に作った作品を掲示している。	居間の装飾を、紅葉からクリスマスに変え、季節の移り変わりを感じる様にしている。毎月決めているユニット毎の歌を歌ったり、皆での活動をしている。居間の他に和室もあり、入居者が横になる時等に使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のベンチで日光浴をしたり、廊下の一角にパブリックを設け、読書をしたり、外を眺めながら過ごせるスペースがある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら、本人に合った室内環境を作り、ご利用者の居心地の良さを配慮している。ご本人の好きな人のポスターの掲示等行っている。	ベッドやクローゼット等を備え付けている。持込み品として、テレビや衣装ケース、回転座椅子等を使っている。2名が携帯電話で家族等と会話している。羽生結弦選手のポスターを貼っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室がわかる様に表札を工夫している。日時もわかるようにその人に合った場所に時計やカレンダーを置いている。又、トイレには常夜灯も設置してあり、夜間でも安全である。居室で照明のリモコンを使用している方もいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300459		
法人名	社会福祉法人 千葉福祉会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	宮城県栗原市志和姫北郷大門87	ユニット名	古都
自己評価作成日	令和 4年 10月 25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 11月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地が良く大型スーパーや東北新幹線くりこま高原駅に近く、遠方からの面会に便利と喜ばれている。法人敷地内に特別養護老人ホームとデイサービスセンターが併設されており、慰問の歌や踊りを一緒に見る等の交流がある。(今年度もコロナウイルス感染予防の為なごみ内部で行事を行う)公園清掃や草取りを地域の方々と合同で行い交流を図っている。協力医の内科、精神科の診察、希望される方には歯科往診やPT指導があり、トランスファーや良肢位、歩行の指導等を行って頂ける。内部・外部研修(オンライン)にも参加し、職員の質の向上にも努めている。毎月の避難訓練と年2回の消防署、地域協力員(今年度不参加)参加の訓練も行っており防災設備も整っている。空きベットを利用したショートステイも行っている。コロナ禍でも利用者様の状態が良く分かるよう、面会や連絡の方法を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新幹線くりこま高原駅や大型ショッピングセンターの近くにホームがあり、田園の中の集落の一角に位置している。敷地内には特養ホームやデイサービスセンターを併設して、地域の福祉拠点になっている。入居者の現有能力を維持出来る様に、本人の状態に合わせたケアを大切にしている。コロナ禍もありホーム内の行事を多くして、入居者に笑って貰う機会を増やしている。家族との関係継続を支援し、入居者の手紙と一緒に写真や塗り絵を送っている。居室の入口には表札以外にイラストを描いたものを貼る等、入居者の笑顔を大切にされた職員の様々なアイデアや工夫が活かされたホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームなごみ)「ユニット名 古都 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福祉会としての理念、なごみ独自の理念を常に目の届く所に掲示している。理念の達成度については自己評価し管理者と面談している。	法人理念、なごみ理念をホールや会議室に掲示して、職員がいつでも確認出来る。会議でホーム理念の振り返りを行い継続とした。職員の個人目標を掲げ、所長との面談等で達成出来たか確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する農村公園の清掃や道路の清掃を地域の方々と一緒に行っている。例年2～3回の清掃となるが、今年度はコロナウィルス感染予防の為法人事務局からのみ参加し1回行っている。	ホームに隣接する公園の清掃や国道にある花の植栽等を、地域の方と一緒にしている。地域の情報は運営推進会議のメンバーから提供される事が多い。食材は地元の商店から購入し、配達して貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学者の受け入れ、空きベットを利用してのショートステイを行っている。広報紙を発行し内部の情報を発信している。運営推進会議でも認知症の種類、対応の仕方等の話しをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎に会議を持ち、生活の様子や活動状況を報告している。各テーマをもうけ現在のなごみのテーマに対する取り組みなども紹介し意見交換を行っている。	花見の行事や外部評価を受けた事、職員が行なった虐待防止の研修報告をした。メンバーからは、地域の避難訓練等について報告があった。双方向の報告から共通認識に繋がり、運営向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市民生活部介護福祉課に推進委員の委員に委託している。その他運営上不明な点等、事故報告の内容等、市担当者に相談し助言を頂いている。	市にショートステイの利用について情報交換をした際に、短期間の利用は難しいとの話があった。コロナ対策では、ワクチン接種等の情報交換をしている。市から研修などの案内が届く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修会等に参加し(今年度はコロナウィルスの為参加出来ず)処遇会議で伝達し常に抑圧感の無い生活の支援に努めている。また日中玄関や居室の施錠も行わず、利用者の所在の把握、行動の把握に気を配っている。身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月に1度話し合いを行い、処遇会議にて内容の徹底を図っている。	年に4回の身体拘束廃止委員会を、「処遇会議」の中で開催している。足元センサーは、転倒防止の目的で期間を限っての使用にしている。知らないふりをする事も見えない拘束になる事を確認している。身体拘束をしない方法などについて勉強している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修や身体拘束廃止委員会での検討を処遇会議で伝達する事により、職員の意識統一を図り言葉使い、態度に気を配りながら虐待防止(職員、利用者間)に努めている。チェックリスト等も使いながら日々のケアを見直す機会を作っている。	高齢者虐待防止法の研修をしている。落ち着かない方には、職員を交代する等の対応をしている。「虐待の芽チェックリスト」で15項目の自己チェックをして、年に1回結果を職員と本部に報告して虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネット上より周知事項を抜粋したり、所内研修にて学び、意見を出し合い統一した考えを持ち支援出来るようにしている。成年後見制度の活用の実績はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を分かりやすく説明し理解を得ている。又変更時には文章と直接説明し理解を得ている。入院時のショートステイ利用についても同意を頂いている。	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の意見を傾聴し反映するように心掛けている。家族については面会時や電話があった際に会話の中より見出すよう心掛けている。運営推進会議でも要望を伺い反映させている。	入居者から「家族に電話したい、病院に行きたい、毎日外に出たい」の意見があり、それぞれに対応した。家族からの「訪問診療や裁縫させて」の要望には、家族の協力を得て実現している。家族から電話で聞くことが多い。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇会議、カンファレンス、その他必要な委員会・係の話し合いを持ち、小さな問題提案から全体会議にて討議合意形成を図り再度見直しをより良い形に近づけるよう取り組んでいる。また、個々に定期的な面接を行い、運営方法等の確認を行いながら進めている。	外に出ることが多かった方に、「ゴミ捨て散歩」があり実施した。入居者の帰宅願望に対応し、自宅が見える所まで行った。職員の意見で、部屋に籠りがちな方を居間に誘い、食事も他の方と共に出来る様になった。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断年一回実施。腰椎検査やストレスチェック等を行い心身の健康保持に努めている。資格取得後の報酬もあり、向上心を持って働けるような支援がある。また、個々に定期的な管理者との面接を行い、運営方法等を確認しレベルアップに繋げられるよう支援する。結果に応じ給与・賞与に反映させるよう努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、職員が講師となつての所内研修を処遇会議で行い、教えるという立場に立つ為、自ら勉強をし直す機会を全員に作っている。今ある課題として外部から講師を招き、職員全員を少人数に分け研修を行っている。	
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修や行き来での交流は出来ず、電話などでのやり取りや、リモート研修での意見交換等を行っている。	他法人のグループホームとリモート研修を通して、良いケアや失敗談等の情報交換をしている。市のケアマネ研修では看取りケアについて、情報交換し、ホームのサービス向上に活かした。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネを通して基本情報を頂き、ご本人と家族に事前に面談し、情報を把握するよう努めている。利用開始にあたっては、本人の話を傾聴し皆様の輪の中に入れるよう環境作りに努めている。環境が変わっても不安にならない様声掛けを多く行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時に自宅での介護の様子を聴き、本人はもちろん家族も安心して生活出来るように支援を行っている。常に家族と連絡を取り合っている。家族の要望も聞き、出来る限りの対応を心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を傾聴し新しい環境に早く慣れて頂くよう努めている。一人一人に合わせた柔軟な対応を行い改善に向けた支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である皆様の得意分野を見出し、発揮できるよう工夫をしている。また、互に支え合いながら生活出来るよう、支援を行っている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外来受診の付き添いをして頂き、状態変化が見られた際は、手紙や電話で細目に状態報告を行っている。面会はコロナウィルスの為制限がかかっており、手紙や写真を送り元気に過ごせている事を伝えている。利用者とのオンライン面会、電話対応も行っている。			
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎朝近隣の商店の方が食材を持って来園している。出張理容で来園する床屋さん(2ヶ月に1回)とも、楽しく談笑しながら髪を切って頂いている。	家族との面会は玄関でしている。かかりつけ医の受診の際に、知人に会うことがある。家族には毎月生活状況報告と写真を送り、返礼がある。月に2回来訪する床屋さん和馴染みの関係が出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が自由に過ごせるように居場所の確保に努め、利用者同士の関係を十分に把握し、活動等を通じて円滑になるようにしている。(職員は情報共有し、連携できるようにしている)			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が母体施設に移った際は顔を見に行ったり、状態を細めに聞いたり、交流行事に参加した際は様子を伺ったりして交流を図っている。(今年度も交流行事はコロナの為なし)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から希望・意向の把握をし、出来るだけ叶えられる様努めている。	家族と話したい方には、毎日の様に電話で話せるよう支援している。毎日外に出たい思いを把握し、プリンターの水やりや落ち葉掃きをしてもらった。思いの表出が苦手な入居者との会話を多くし、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始後も常に会話を持ち生活歴習慣の把握に努めている。新しい発見や情報もその都度記録しており、家族の協力も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人の生活リズムを理解し行動等から感じ取りながら、全体像を把握している。個々の有する能力を見極めお手伝いや得意分野に反映させている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で検討課題を共有し、家族の意向を聞き入れながら作成している。月末のカンファレンス時にも職員間で情報共有し評価し見直しが必要であれば話し合いを行い、取り入れるようにしている。	楽しく過ごしたい方に、散歩や家事、テレビ体操など出来ることを介護計画に入れた。外出傾向が見られた時の、声掛けを統一することをプランに入れた。歌が好きという人に、みんなと歌を歌うことをプランに入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録とチェック表を記入している。ケアカンファレンスを行い、職員間で情報の共有を行い、介護計画の見直しや実践に活かしている。毎日の引継ぎで変化について話し合い統一した対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染予防の為、外出・外泊は難しい状況である。その分家族への連絡は細目に行っている。希望があれば、通院や薬の受け取り等についても職員が付き添い代行をしている。また、その他相談に応じ柔軟に対応出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域協力員会議、防災訓練等は地域の協力を得ている。地区の行事への参加はコロナウィルスの為、現状行えていない状態である。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望されるかかりつけ医となっている。基本的には受診や通院は家族となっているが、都合が着かない時には職員が代行している。家族の受診時には文章や口頭でも状況を報告している。状況により職員もご家族と一緒に外来受診に同行し、Drと話をする事もある。	入居前からのかかりつけ医や訪問診療医を利用している。通院は家族対応が基本で、状態等を書面にして家族を通して医師に伝えている。歯科診療は個人契約で、月に2回の来訪がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時や応急処置が必要な怪我の際には母体施設の看護師に相談し協力を頂き支援している。毎日の巡回の際、変わりあれば状態報告を行っている。協力医の看護師とも連絡を取り、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず同行し家族や医師との情報交換や相談に努めている。本人の回復状態を把握し、退院後の受け入れや、対応を、医師、家族と話し合い安定した生活が送れるよう連携を図っている。コロナウィルスの為、入院中の訪問は難しいが、家族や病院との連絡を細目に取り状態を伺っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為の必要性があると、当事業所では対応できない為、入所時に特養への入所申込みをして頂いている。当施設での看取り支援に関する意向確認書を家族より記入頂いている。	重度化した場合の対応指針を定めている。ホームで看取りを希望する方が多く、この1年間で3名の看取りをしている。隣接する特別養護老人ホームの看護師と支援体制がある。看取りケアのポイント等の研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当の講習を受講している。また事故発生時や緊急時のマニュアルは作成されており、全職員は心得ている。事故発生時は、事故防止対策検討会で検討し再発防止に努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉会と地域協力員の災害時のマニュアルが作成されている。日中は勿論の事、夜間想定避難訓練も月1回定期的に行われている。消防立会いの訓練は年2回行われており、講評時に意見交換を交え、より良い防災対策に努めている。(今年度も立ち合いなし)	年2回の地震想定を含む火災等の避難訓練を毎月実施している。夕刻の訓練等で時刻の工夫もある。緊急時には、住民による地域協力員との協力体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切にし、さりげないケアを心懸けている。特に声掛けの際は細心の注意を払い、分りやすい言葉掛けと笑顔、必要に応じてジェスチャーや筆談で対応している。入室の際は、ひと声掛けてから入室するようにしている。	居室に入る時には、入る目的を話して入る事になっている。耳が聞こえ難い入居者に話す時は、聞こえ易い方向から声を掛けている。排泄介助では安全確保の為に少し開けて、廊下で見守りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせてご本人が答えやすく選びやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の心身の状態に応じて自分なりの生活が出来るよう支援を行っている。本人の意思を尊重して活動や行事に参加して頂いている。無理のないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張床屋をして頂き本人の気持ちに合わせてその人らしくのおしゃれを支援している。自宅で過ごしていた時のように毎日の化粧が継続出来るよう、家族にも化粧品の準備等の協力を頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食で外注したり、旬の食材の使用、色どり・盛り付けの工夫をしている。又、週に一度希望献立が設けられており、皆さん希望の食材を取り入れている。(畑で収穫した野菜等も利用)各々に合ったお手伝い(テーブル拭き、茶碗洗い、茶碗拭き)を職員と共に行っている。	日曜日は希望メニューとなり、入居者の希望としてスパゲティやラーメンの人気の高い。敬老会やクリスマス等の行事食は、弁当や寿司等を地元店に注文している。ホットケーキは入居者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で、栄養バランスが摂られ、摂取量の記録も細目に行っている。また、咀嚼や嚥下状態に応じ、刻み食やペースト食も提供している。食事量が落ちた方には個別のチェック表を作成し、場合によっては捕食(高カロリーゼリー)を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛け見守りを行い、出来ない方には各々に応じた歯磨きの手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り、記録を行い、一人一人の排泄パターンを把握している。時間ごとの声掛けや誘導を行い、本人の能力に応じた支援を行っている。トイレのサインは見逃さず、失禁を減らすように努めている。	8人が声がけ程度の支援で自立となっている。排泄チェックリストを使って定時の誘導をし、失敗を少なくしている。それぞれ等の行動サインを見逃さず、声がけをして誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。(主治医の内服薬を服用している方もいる)		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の希望にあつた入浴を行っている。気の合う方同士や、一人で入りたい方の希望にも応じている。また、菖蒲湯やゆず湯等で季節感を味わえる工夫をしている。入浴剤等も使用し色・香りでリラックスして頂いている。	午前や午後の時間要望や温度の希望に応じている。菖蒲湯やゆず湯等で季節を感じている。毎日入浴したい方には、週4回にして今後増やす方向にしている。衣服の着脱だけの介助で1人で入浴する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気に触れる機会を多く持ち、活動を促し生活のリズムを整えるようにしている。就寝時は、音や光、温度に注意を払い良眠出来るよう支援している。就寝時間・起床時間も記録している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに各々綴っており、職員が内容を把握するようにしている。外来記録簿を作成し、受診内容を記録している。又内服変更時にも状態変化を詳細に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意分野で力を発揮して頂き、出来そうな事を職員と共に楽しみながら行っている。常に感謝の言葉を添えて協力して頂いている。活動参加の少ない方も嗜好品などで楽しみをもって頂けるようにしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの為、外出支援は難しい状況であり、朝のゴミ捨て散歩、外気浴や畑での収穫や観察等、敷地内で出来る事を行い、なるべく外に出る機会を持てるように支援している。季節ごとのドライブを行ない、車外に出て季節を感じて頂いている。	春の花見や秋の紅葉、冬は白鳥のいる伊豆沼等と季節によって外出をしている。通院の帰りに家族と買い物をして来る方もいる。ホームの畑では、じゃが芋やピーマン等の季節の野菜を育てて、外での活動にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より預かり、個別に金庫に保管し出納帳に記入し、毎月家族にサインを頂いている。本人に必要な物を伺い職員が代わりに購入したり、家族へ依頼する支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物等があった際には支援を行いながら、直接電話で話をしている。季節に合った手紙やはがきの支援も行っている。(年賀状、暑中見舞い等)コロナウィルスの為、面会も制限されており、オンライン面会や写真を送る支援もおこなっている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、木のぬくもりがあり、心地良さが伝わってくる。天窓からは光が差し込み、ゆっくりとくつろげるよう配慮している。季節に合った掲示物を利用者と共に作成し掲示している。	居間の装飾を、紅葉からクリスマスに変え、季節の移り変わりを感じる様にしている。毎月決めているユニット毎の歌を歌ったり、皆での活動をしている。居間の他に和室もあり、入居者が横になる時等に使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の一角にパブリックを設け、談笑をしたり、ひなたぼっこをしながら外を眺められるスペースがある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら本人に合った室内環境作り、利用者の居心地の良さを配慮している。家族が持参された写真等を飾られている方も居る。	ベッドやクローゼット等を備え付けている。持込み品として、テレビや衣装ケース、回転座椅子等を使っている。2名が携帯電話で家族等と会話している。羽生結弦選手のポスターを貼っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分るように表札を工夫している。日時もわかる様に各居室及びホールにカレンダーを設置している。目線の集中しやすいテレビの上に時計を設置し、自然に時間が把握できるようにしている。		